

2020年6月

【介助犬と輝かしい活動を】古川美術館（愛知県千種区）で介助犬使用者の絵画展示開始



愛知県千種区にある古川美術館にて古川美術館企画展「美術のなかのどうぶつたち」が開催されている。期間は2020年6月2日(火)～8月2日(日)。その中で、社会福祉法人日本介助犬協会所属の介助犬使用者である山内稔氏が、パートナーである介助犬ティティーをモチーフに描いた「介助犬に花束を（以下、本作）」が展示されている。

山内稔(やまうち みのる)氏は、バックパッカーとして世界を回るなど、アクティブな生活を送られていたが、2000年にバイク転倒事故により脊髄を損傷。車いすでの生活となった。事故後は外出が億劫となり、約9年間の引きこもり生活を送っていたという。そんな生活がガラッと変わったのは、2009年に愛知県名古屋市で開催された福祉機器展にて介助犬を見たことがきっかけだった。

後のパートナーとなるティティーと出会ったのは2012年3月。共に訓練を重ね、6月には介助犬使用者と介助犬として国から認定を受けた。



山内稔氏にとって介助犬ティティーは「心のバリアを自分自身も気付かないうちにキレイになくしてしまう特別な力を持った存在」だという。本作は、介助犬ティティーをモチーフに描かれた初めての大型作品であり、2018年の“あいちアール・ブリュット展(主催：愛知県)”では入賞を果たした。

そんな山内稔氏&介助犬ティティーのペアはもうすぐ引退を迎える。いつか個展を開きたいと願う山内稔氏とティティーの絆がありありと伝わってくる「介助犬に花束を」をぜひ見に行ってみて欲しい。

■会場はこちら

公益財団法人古川知足会美術館 分館 為三郎記念館

〒464-0066 名古屋市千種区池下町 2-50

<http://www.furukawa-museum.or.jp/>

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためマスク着用での来館を。

また、来場者数によっては入場制限が発生する可能性あり。

※～8月2日(日)まではロビーにて介助犬チャリティーグッズを販売中。

